

単元構想の工夫と本時のねらいの明確化

教師の悩み

目の前の子供たちに合った授業にしたいのだけど・・・
問いが連続する単元を構想しているけれど、1時間ごとにぶつ切りの授業になってしまう・・・



単元を通して育成を目指す資質・能力を明確にして、授業の構成を工夫しましょう！

1 単元構想のポイント

単元を通して『育成を目指す資質・能力』を明確に！

そのためには

- ◎ 一人一人の子供が活躍し、主体的な学びが連続するようにしたい！
- ◎ 主体的・対話的で深い学びを実現し、このような資質・能力を育てたい！

教師の『3つの視点』が重要！



◎ 単元の目標を明確に！

➡ 学習指導要領を読み込み、観点別に目指すべき子供の姿を明確にしましょう。

◎ 教材の意図や背景を理解して！

➡ 教材の意図や背景を理解し、学習内容の系統性や他の単元・他教科等との関連を考えましょう。

◎ 目的をもった実態把握を！

➡ 学習内容に対する子供一人一人の実態（既習事項の理解度、予想されるつまずき、生活経験、興味・関心、学び方の状況等）を確認しましょう。具体的なデータを用いるとよいでしょう。

『3つの視点』をもとに指導の計画を立てましょう。



2 単元計画作成上のポイント

○ 単元終末の子供の姿を具体的にイメージします。

→ 「何が分かり、できるようになってほしいのか」「どんなことを考え、判断し、どのように表現してほしいのか」「実生活や次の学びにどのように生かせるようになっているか」という3つの観点を大切にしましょう。

○ 単元全体の見通しを大切にします。

→ 内容や時間のまとまりを見通し、どの時間にどのような活動を設定し（言語活動、一人一台端末やデジタル教材等の活用、観察実験、家庭学習等）、それらをどのようにつなぐか、どの場面でどのように評価すればよいかを考えましょう。

○ 教材の系統性や他教科等との関連性を確認します。

→ これまでの学習を生かし、これからの学習につなげる視点を大切にしましょう。

○ 1単位時間の指導事項を精選します。

→ 限られた時間を効果的に活用するために、1単位時間に多くのねらいを設けるのではなく、単元全体を見通して、各授業におけるねらいを精選し、重点的に指導しましょう。

3 本時の授業づくりのポイント

○ 授業のゴールを具体的にイメージします。

→ 単元計画を生かし、本時の授業のゴール（終末）では、子供たちは「何が分かり、何ができるようになってほしいのか」を具体的にイメージしましょう。

○ 「本時のねらい」を明確に示します。

→ 本時の学習活動や手立てを明確にするとともに、本時で目指す子供の姿を具体的に示しましょう。

➡ 「～を通して（学習活動や手立て）、～することができる（目指す姿）」